南海トラフ巨大地震に備えて

三陸地方に伝わる津波三原則の１つに「想定に囚われるな」があります。

福島区でも南海トラフ巨大地震が発生した場合、３mもの津波が約２時間で到達すると想定されています。しかしこれはあくまでも想定です。過去の大災害はすべて想定を超えた津波であったり、降水量等により大きな被害がでました。被災者の方のお話によると、陸前高田市の津波想定は 50 ㎝でしたが、東日本大震災のときは15mの津波がきました。この「想定に囚われるな」の教訓からご自身ができる最大限の備えをお願いします。

頑丈な高い建物へ避難

津波が発生した場合は、速やかにマンション等の高い建物の３階以上に避難して下さい。

また、事前にどこに避難できるか確認しておきましょう！

福島区
避難所一覧の
ホームページ

災害時　在宅避難のすすめ

災害時、学校などが避難所となりますが、その環境は決して良いものではありません。自宅が無事ならなるべく住み慣れた家で避難生活を送りましょう。そのため、ローリングストックで普段の生活に備蓄を取り入れましょう。

最低３日間、なるべく１週間分の食料や水を備蓄しましょう。また停電時はカセットコンロがあると便利です。

被災地を訪問した生徒の皆さんには、感想文を書いてもらっています。当リーフレットでは、今回の訪問代表を務めていただいた生徒の感想文を紹介しますが、福島区役所のホームページで全員の感想文を公開していますので是非ご一読ください。

「震災を通して学んだこと」

野田中学校　2年生　山崎　颯花

今回色々なプログラムがありましたが、印象に残ったプログラムが2つあります。

一つ目は、「米沢ビル」の見学です。

ここでは実際に被災された米沢祐一さんが運営していたビルを見学しながらお話してくださいました。米沢さんは東日本大震災で母、父、弟を亡くされたそうです。ここで学んだのが、「一分、一秒の大切さ」です。米沢さんはラッキーの積み重ねで助かったとおっしゃっていました。あと一分行動が遅かったら自分は助からなかったとおっしゃっていたので一分一秒を大切に過ごしていこうと思いました。

二つ目は、当時私たちと同じ中学生だった菊池のどかさんに当時のお話を聞きながら避難体験をしたことです。現在中学生である自分たちとかわらないくらいの子どもたちが率先避難者となって、小学生だけでなく大人までも命を救いました。

これはある日突然できたことではありません。日々釜石の中学校では震災の対策がされていました。その中でも強く言われているのが、「津波てんでんこ」です。津波てんでんこは、津波がきたらてんでばらばらに高所に逃げ自分の命を守れという意味です。

この言葉を行動にした子どもたちはほぼ全員助かったそうです。

災害がおこったときの行動を予測して、訓練することも大事ですが、もし危険に遭遇したら、一瞬で判断し行動する力が必要だということがわかりました。

この被災地訪問事業を通して、福島区民のみなさんに伝えたいことは、想定に囚われずに率先避難者となり周りの人たちと協力し一刻も早く高い建物へ避難し最善をつくすことが大切だということです。

感想文の
ホームページ

当事業及び来年度からの「中学生体験学習事業」にご協力いただいた皆さま

皆さまから温かいご支援をいただき、心よりお礼申し上げます。

【ご寄附いただいた皆さま】

（今回の氏名等掲載につきまして、令和３年 11 月に募集を開始しました「中学生体験学習事業」について、令和４年９月末までに、個人で１万円、法人で３万円以上当事業にご寄附いただいた方のうち、氏名の公表をご了承いただいた方のみ掲載しております）

〈法人〉大阪福島ライオンズクラブ 様　　光洋電機工業株式会社 様

〈個人〉林 靖浩 様　　猫島 義明 様

【参加生徒の現地食事代にご協力いただいた皆さま】

大阪市福島区地域振興会 様

八阪中学校 PTA 様　　下福島中学校 PTA 様　　野田中学校 PTA 様

引き続き、学習内容を防災分野に限定しない「中学生体験学習事業」への寄附募集をさせていただいております。区内の中学生が自主性やまちづくりへの関心を一層高められるような事業実施のため、ご協力をお願いします。詳しくは福島区役所にお問い合わせいただくか、福島区役所ホームページをご覧ください。

寄附募集のホームページ

大阪市福島区役所（〒553-8501　大阪市福島区大開 1-8-1）　保健福祉課子育て教育担当（TEL / 06-6464-9864）